

よいや～の風にのって



学校だより
の以前の号
はこちら←



令和7年12月3日(水)No.20—校長 東原 宏章—

「本校の研究(授業改善)」

県内のほとんどの小学校が、1年間、もしくは複数年の研究テーマを設け、研究(授業改善)を進めています。

本校の研究テーマは「学びに向かう力を高める体育学習の追究～自ら振り返り、選び、打開しようとする児童の育成を目指して～」です。体育科を中心に確かな学力の向上を目指しています。

数年来、本校は体育科の研究を続けてきましたが、今年度は、学力(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」)の中でも「学びに向かう力の育成」を重点課題として授業改善に取り組んでいます。

「学びに向かう力」とは、子どもが自ら考え、試そうとし、学び続けようとする姿勢のことです。将来の学びや生活で大切になる力です。

本校の研究対象の教科は体育科ですから、体育科で目指す「学びに向かう力」とは、おおよそ次のようなことになります。

①意欲的に運動に取り組もうとする姿勢

- ・最後までやり抜こうとする
- ・苦手なことにも挑戦しようとする

②友達と協力・助け合いながら学ぶ姿勢

- ・ルールを守る
- ・チームで作戦を考えたり、仲間のよい動きを見つけ伝えたりする



2年2組体育科授業「バウンドキャッチゲーム」



2025/11/13



2025/11/13

③自分の運動を振り返り、よりよくしようとする気持ち

- ・「どうしたらできるようになるか」を考える
- ・自分の課題に気づき、次のめあてをもつ

これらのことから、体育科で身に付けた「学びに向かう力」は体育科の学習に限らず、他教科で発揮することができるものであり、生活をよりよくするために大切なものであることが分かります。

11月13日(木)には2年2組の子どもたちと担任教師が授業を公開してくれました。「バウンドキャッチゲーム」というボールゲームが行われました。攻めと守りに分かれたコートで、相手コートにボールを投げ入れる簡単なルールで行われるゲームでした。

子どもたちは、「ボーナス点をゲットできるルールをえらんで楽しもう。」というめあてのもと、教師が提示した複数のルールの中から、グループ全員が意欲的に取り組むことができると思われるものを選んでいました。

授業の終盤の「振り返り」の場面では、多くの子どもが「ルールを変えたら、みんなが活躍できた。」「違うルールを選んでいたら、チームのみんながもっと楽しめたかもしれない。」などの感想をもつことができました。

この日の放課後には、授業を参観した教職員で、授業改善の在り方や、今日の学びをこれから他の体育科の学習や他教科の学習にどのように生かしていくのかを熟議しました。

高城台小学校のすべての教室等で、これまで以上に学びに向かう子どもたちの姿が見られることを期待するばかりです。



授業を参観した教職員が気づき等を書き込んだシート。これをもとに協議(授業反省会)をします。

